

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)2月5日 No. 1149

目次

激動の予兆に揺れるロシア・アルミニウム産業について……………坂口 泉	1
旧ソ連・東欧貿易商況(1999年12月)……………	14
C I S諸国通貨の最新為替レート……………	15

激動の予兆に揺れるロシア・アルミニウム産業について

はじめに 1999年秋にモスクワに出張した際、モスクワの町中(まちなか)で奇妙な看板をみかけることが多かった。アルミニウム産業におけるトーリング(後述)の廃止を訴える看板や、あるいは逆にトーリングの継続を訴える看板が町中に出現していたのである。トーリングというは外来の専門用語で、ロシアの一般の人はまず知らない単語である。そのような単語を前面に押し出した看板が何故、町中に出現したのか、その時、筆者にはわからず、奇妙な印象だけが残った記憶がある。後で調べてわかったことだが、この少し前より、トーリングの是非をめぐる戦いが加熱しはじめていたようである。賛成派も反対派も世論を味方につけようとして、キャンペーンを展開していたらしい。また、このトーリングの是非を問う論争の勃発と時期をほぼ同じくして、ロシアのアルミニウム業界の勢力地図の変動を予見させるようなニュースがいくつか飛び込んできている。具体的にいえば、クラスノヤルスク・アルミニウム工場のピコフ会長逮捕、ウクライナのニコラエフ・アルミナ工場の支配権をめぐる戦い、英国のトレーダーTWG(トランス・ワールド・グループ)が2000年1月に行ったといわれるレフ・チェルノイ氏(一般には、旧ソ連のアルミニウム業界を牛耳る重鎮の1人と認識されている。かつては「闇の帝王」的印象が付きまとったが、最近では、表舞台でも通用する「政商」的存在への転身を図っているとの印象が強い)との決別宣言等である。

本レポートでは、日本のロシアからのアルミニウム輸入に大きな影響を及ぼす可能性のある、トーリングをめぐる動きを中心に、ロシア・アルミニウム産業の現状を紹介したい。

なお、本レポートに大幅加筆したものを近刊の当会『ロシア東欧貿易調査月報』に掲載す